

# 言い訳としての「うつ病」に対する評価及び、 評価に関与する要因の検討

○山川樹  
日本大学大学院文学研究科

坂本真士  
日本大学文理学部

## 1. Introduction

近年、意図の有無に関わらず、うつ病の治療戦略情報を逆手に、責任から逃れる言い訳にうつ病を持ち出す人が出現してきた。

💡 治療戦略情報とは...  
・うつは心の風邪  
・うつ病には休養が必要  
・うつ病に「頑張れ」は禁句など

本当にうつ病かは分からないが、「私はうつ病だと思う」と発言する人物は、どのように評価されるのか？

### Purpose

- ① 失敗場面において症状の記述がないなか「(私は)うつ病だと思う」と自己報告した人物に対する評価を検討する。
- ② 評価に関与する要因を検討する

## 2. Method

### Participants & Design

- 関東4ヶ所の大学生338名 (男性:172名, 女性:166名)
- 1要因参加者間計画(言い訳有無)

### Procedure

- 場面想定法, 個別記入式質問紙実験
- 講義時間中に配布・回収

### Materials

- (a)ターゲット人物の失敗場面を描写した2種類のビネット。(b)責任評価。(c)行為者評価尺度。(d)うつ病帰属方略。(e)うつ接触経験。(f)CES-D(島ら, 1985)。
- (b)-(c)は各ビネットに基づき, (d)-(f)は回答者の態度や状態について尋ねた。
- (c)-(e)は個人的評価と社会的評価を尋ねた

## 3. Result & Discussion

### Result 1

(c)行為者評価尺度に因子分析(最尤法・Promax回転)。4因子(各3項目)を抽出。

### 4つの下位尺度得点を条件間で検定

叱責, 未熟性は言い訳有り条件が有意に低い  
誠実性, 同情は言い訳有り条件が有意に高い

Table 1 検定の結果

	Range	実験条件 (N=205)		統制条件 (N=133)		F(df)	t(df)	Cohen's d
		M	SD	M	SD			
1. 叱責	3-15	8.29	2.16	9.85	2.17	1.02(204,132)	6.47(336) ***	0.72
2. 誠実性	3-15	7.96	1.74	6.46	1.63	0.89(204,132)	7.94(336) ***	0.88
3. 同情	3-15	9.14	2.05	7.62	1.43	0.49(204,132) **	8.03(334.2) ***	0.89
4. 未熟性	3-15	8.77	2.10	9.33	1.68	0.64(204,132) **	2.70(321.8) **	0.30

\*\*p<.01, \*\*\*p<.001 Note. 3と4はWelchのt検定の結果である。

### Result 2

叱責+未熟性を「批判的態度」, 同情+誠実性を「好意的態度」

### 探索的パス解析

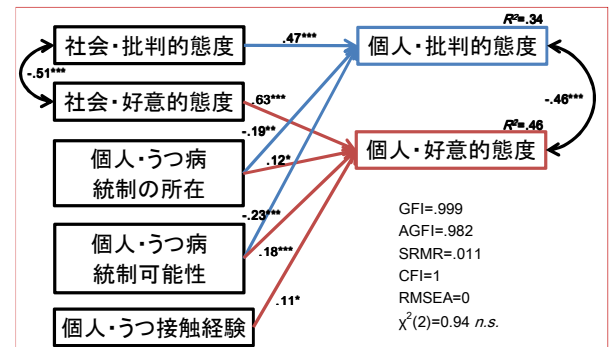
基準変数: 「批判的態度」・「好意的態度」(個人的評価)

説明変数: 「批判的態度」・「好意的態度」(社会的評価)

うつ病帰属方略5次元(個人・社会各評価)

うつ接触経験(個人・社会各評価)

CES-D



### Discussion

- 本当にうつ病が分からずとも、「うつ病だと思う」という発言は失敗に対する非難を抑えた。
- 個人の評価には、他者はどう評価するか、うつ病の統制の所在、統制可能性、評価者のうつ病接触経験が影響を及ぼす可能性がある。